

「日々の理科」(第2002号) 2020,-1,-2

「江の島紀行(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

湘南モノレールを降りて、江ノ電に乗り換えた。鎌倉方面に乗るはずが、間違えて藤沢行に乗ってしまい、一駅先で折り返した。



鎌倉行の電車が入ってきた。江ノ電の車両は「2両編成」が基本で、2両のままで走る電車と、2×2で4両で走る電車がある。どの駅も4両編成が入れるホームの長さがあるが、駅によっては3両しか入らず、先頭車両のドアが開かない。この日は平日だったが、4両編成でも結構混んでいた。来た電車は、結構新型車両のようだ。



行き先表示にも工夫がある。「鎌倉 KAMAKURA」の行先の両端に、雪だるまとネズミの干支が描かれている。他にも「江ノ島の灯台」や「大仏さま」などいろいろな絵柄があり、乗客を楽しませてくれる。



江ノ電は、路線のほとんどは「専用軌道」だが、一部路面を走る区間がある。江ノ島～腰越間が「併用軌道」である。商店街の中を4両編成の電車がゆっくり走る。線路のすぐそばに正月飾りの露店が見える。



公道上に線路があるので、電車の後ろを自動車がついてくることもある。「電車接近」という表示もある。地元の人には特に珍しい光景ではないようだ。



腰越駅の手前で、線路と道路が「分離」する。この駅で降りると、江の島の見える砂浜まで近い。